

被災地への支援を開始しました！

3月11日に発生した東日本大震災はひと月あまりが過ぎた今も各地に大きな爪あとを生々しく残し、被災された方々の先の見えない避難生活が続いています。

日本聖書協会では、聖書頒布の使命を強く認識し、特に被災された教会の復興と、被災されたすべての方々に主にある希望をお届けすることを願って聖書と必要物資の支援を開始しました。既に3月27～30日、4月14～17日の2回、宮城・岩手両県の津波被災地を中心に訪問支援を行いました。

第1回訪問（3月27～30日）

訪問地：宮城県仙台市、塩釜市、亘理町、山元町、白石市

支援聖書：聖書1200冊、新約聖書150冊、絵本聖書150冊、マンガ聖書30冊 他

支援物資：果物、医薬・衛生用品、カイロ、ティッシュ、食品用ラップ、軍手 他

地震発生から2週間あまりがたち、東北自動車道の全面開通を受けて、最初の被災地入りを試みました。支援聖書と手配した支援物資、また大田区の教会・ライトハウスからも物資の提供を頂き、チャーターしたトラックと日本聖書協会のバンに積み込んで仙台を目指しました。

28日、仙台では日本基督教団東北事務所、仙台キリスト教書店ほか、4つの教会・支援団体を訪ね、聖書と支援物資をお届けしました。市内はどこもガソリンを求める車の行列が出来ており、燃料不足の深刻さを感じました。

翌29日は津波の被害地域を目指し東へ。仙台を抜け、多賀城市に入ったとたん、景色は一変し、道路の両脇に散乱する瓦礫、鉄塔や家の中など、ありえないところに挟まる潰れた車、この地を津波が襲ったことを強烈に思い知らされました。更に北東に行った塩釜では3つの教会を訪ねました。一部津波の汚泥をかぶった教会もありましたが、いずれの教会も会堂は守られ、地域の方々への支援物資の保管場所や瓦礫整理に来たボランティアさんたちの宿泊所として使われており、地域の皆さんと助け合って生きようとする懸命な姿に感銘を受けました。津波被害を目の当たりにしながら南に進み、亘理町へ。ここでお訪ねした日本キリスト改革派の亘理伝道所には



26日の積み込み風景
ライトハウス・小田彰師、同教会員の熊倉良子姉と



改革派北中山伝道所・坂本紀夫師と



津波に飲み込まれた山元町の街角で

災害見舞いに来られた改革派の牧師先生方が集まっておられ、交わり場のを共にさせていただきました。こちらの伝道所はさらに南の山元町で集会を2年ほど続けていたそうですが、その集会の場所であった建物は丸ごと津波を被り、昨年この場所で初めての受洗者となった2人の教会員も共に被災されました。改革派の先生方とこの山元町の集会所をお訪ねしましたが、町全体を飲み込んだ津波被害の甚大さに言葉がなくすばかりでした。